

SAABのあゆみ SEISAのこのごろ



Contents

01	SAABについて	17	さまざまな国際交流
05	星槎のスポーツ	19	東日本大震災の支援活動
09	未来に向けスポーツを超えて	20	FM 湘南マジックウェイブの紹介
11	スポーツを通じて世界に広がる笑顔の連鎖	21	宇宙教育／マッケンジー・ソープさんが星槎の仲間入り
13	ジゲル ウゲン ワンチュク王弟殿下からのお手紙	23	グループ組織図
15	星槎から世界へ	25	教育理念／星槎の歌



サーブ SAABとは

今やアフリカは、多くの天然資源を有し、また、ICT開発の拠点として、多くの人々が注目する世界の中心とも言える大陸へと変化しています。この変化に対して、私たち日本人が、どのような姿勢で向き合っていきたいのか、10年先、20年先の世界のあり方を考える上で、とても大切な時間にさしかかっています。

この様な状況の中で、私たちはこれまで4回にわたり「SEISA Africa Asia Bridge」を開催してきました。子どもたちはアフリカの国々について「知る」「繋がる」という目標の実現を目指し、多くの国の方々と共に、アフリカの持つ多様性の素晴らしさ、そして可能性について語り合い、共感しあう機会となりました。2020年、日本で行われるオリンピック・パラリンピックの開催に向けて一つでも多くのアフリカ・アジアの国々が参加できることを願っています。

そして、真の意味での共生とは何か、持続可能な社会とは何か、平和とは何かについて私たちに何ができるのかを考える機会にしていきます。この取り組みが持続し、次の世代を担う私たちが自ら、行動する種になることを考えています。距離の遠さよりも心の近さを持つ私たちが、日本においても、アフリカ、アジア、太平洋の諸国においても、共に仲間として平和な世の中を創れることを強く願っています。



昨年、第4回目となるSEISA Africa Asia Bridge 2018を11月10日(土)、11日(日)の2日間、開催いたしました。両日ともに天気に恵まれ、テーマ「“知繋(ちけい)”＝知ること、繋がること」のもと、アフリカ、アジアの国々を対象に、参加国数は大使館が16カ国、その他20以上、日本を合わせると36カ国以上、総来場者数7,011名の皆様と共に、学びと関わり合いの輪を広げることができました。

全国の生徒と近隣の皆様の協力によるSAABの学びは、より発展し、多くの方々にご称讃をいただきました。アフリカやアジアの国々と国連の掲げるSDGsについての全国の中高校生によるプレゼンテーションや、オリンピックをお招きし、それぞれのご経験やスポーツを通じた世界との関わりをお話いただきました。フィナーレのステージ会場では、1,000人以上の方々が一斉に未来に向けて夢や願いを書いた紙飛行機を飛ばし、皆様の心に残るシーンも多かったことと思います。引き続き、さらに多くの皆さんと共にSEISA Africa Asia Bridgeを作っていきたいと思います。



sTED

全国の星槎の中高校生、近隣の小中高生が一堂に会し、アフリカやアジアとのつながりや国連のSDGs Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)をテーマに、10年先、20年先、50年先の未来について考え、プレゼンテーションする、『sTED(Seisa Transnational Education Design:通称ステッド)』を開催。1年間の研究の成果をもとに生徒たちが熱いプレゼンテーションを繰り広げます。



星槎電力プロジェクト×SDGs

「星槎全国生徒会～星槎電力プロジェクト×SAAB～」と題して始まったステージでは、北海道から沖縄までの全国の星槎の仲間が集い、持続可能なエネルギーについて、一年間の学び合いの成果を発表しました。テーマや発表方法が異なる6つのグループが、各発電方法のメリットやデメリット、国ごとの比較などを具体的に示しながら、これからの未来を考える発表を行いました。



SKYプロジェクト

星槎グループでは、2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックにむけて、神奈川県、小田原市、箱根町、大磯町とともに、エリトリア国、ブータン王国、ミャンマー共和国の事前キャンプをサポートいたします。その取り組みの一つとして、SKYプロジェクトを協働しています。(※S:スポーツ K:教育 Y:友好)

SAAB2018では、大空(SKY:2020年)に向け、各々の夢を書いた紙飛行機を飛ばそうという企画にチャレンジしました。時間が近づくにつれ、会場にはたくさんの国の方、たくさんの世代の方々が集まり、日本と世界、そして未来が繋がる紙飛行機飛ばしが実施されました。



来場者数

	第1日目	第2日目	合 計
2018年	3,014名	3,997名	7,011名
2017年	3,604名	3,643名	7,247名
2016年	2,600名	3,200名	5,800名
2015年	4,000名		4,000名

※2015年度は1日のみ開催

参加国数

	大使館関係	その他(日本含)	合 計
2018年	16ヶ国(20カ国)	20カ国	36カ国
2017年	21ヶ国(24カ国)	14カ国	35カ国
2016年	13ヶ国	17カ国	30カ国
2015年	9カ国	8カ国	17カ国

主 催

- 公益財団法人 世界こども財団
- 学校法人国際学園

後 援

- 外務省
- 文部科学省
- 神奈川県国際課
- 横浜市
- 横浜市国際局
- 箱根町
- 大磯町
- 神奈川県教育委員会
- 横浜市教育委員会
- 小田原市教育委員会
- 大磯町教育委員会
- 独立行政法人国際協力機構(JICA)

協 力

- 日本アフリカ友好横浜市会議員連盟
- 若葉台連合自治会
- 一般財団法人若葉台まちづくりセンター

参加大使館

- アンゴラ共和国
- エジプト・アラブ共和国
- エリトリア国
- ガーナ共和国
- ガボン共和国
- カメルーン共和国
- コンゴ共和国
- ザンビア共和国
- ジンバブエ共和国
- トーゴ共和国
- ブルキナファソ
- ベナン共和国
- マダガスカル共和国
- 南アフリカ共和国
- モザンビーク共和国
- レソト王国
- ※大使3
(マラウイ、モロッコ、ナイジェリア、スーダンは)
(当日ご欠席も事前協力あり)

参加国

- アンゴラ共和国
- エジプト・アラブ共和国
- エリトリア国
- ガーナ共和国
- ガボン共和国
- カメルーン共和国
- コートジボワール共和国
- コンゴ共和国
- ザンビア共和国
- セネガル共和国
- ジンバブエ共和国
- タンザニア共和国
- トーゴ共和国
- ナイジェリア共和国
- ブルキナファソ
- ベナン共和国
- マダガスカル共和国
- 南アフリカ共和国
- モザンビーク共和国
- レソト王国
- ミャンマー連邦共和国
- バングラデシュ人民共和国
- ブータン王国
- アメリカ合衆国
- ロシア連邦
- 中華人民共和国
- モンゴル国
- 大韓民国
- フィリピン共和国
- 中華民国(台湾)
- フランス共和国
- フィンランド共和国
- スウェーデン王国
- アイルランド共和国
- タイ王国
- 日本

参加された方の国籍(確認できたもののみ)

国内最大規模の国際会議 TICADVII(第7回アフリカ開発会議)に参加しました

2019年に8月29日神奈川近郊の中高代表生徒44名が、日本国内における最大規模の国際会議 TICADVII(第7回アフリカ開発会議)に参加しました。

神奈川県と国際開発計画(UNDP)のサイドイベント「SDGs達成へ マルチセクターパートナーシップの推進」では、ステージ正面の一等席からアヒム・シュタイナー UNDP総裁、黒岩祐治 神奈川県知事、ロイ・マリーク・ロウエ氏 ガンビア共和国バンジュール市長のオープニングセッションに始まり、日本とアフリカ各国の起業家によるパネルディスカッション「SDGs達成に向けたイノベーションの実践」まで、ステージ正面の一等席で参加することができました。国際会議ならではの同時通訳のイヤホンの使用にドキドキしながらも、真剣に聞き入る生徒たちの姿勢に、SEISA Africa Asia Bridgeで学び続けてきた成果を見ることができました。今年の『SEISA Africa Asia Bridge 2019』では、さらに深い学びを表現してくれることと思います。



第7回 ニューヨーク海外研修における国際連合訪問



2019年10月18日にUNDP(United Nations Development Programme:国連開発計画)を訪問し、星槎のSAAB活動報告と今後の展望、SDGsの取り組みを発表する機会をいただきました。当初30分のお約束でしたが、1時間30分にわたりお時間をいただき、Ms. Eunice Kamwendo戦略アドバイザーのご挨拶の後、国際連合日本政府代表部 星野俊也大使、Mr. Abdoulie Janneh 国連経済学者 UNDPガンビア事務所経済担当官、Mr. Tony Muhumuza UNDPウガンダ事務所経済担当・戦略政策ユニットチームリーダー、Mr. James Neuhaus 広報担当、Ms.Ahunna Eziakonwa 書記官候補アフリカ地域担当部長、古我知晶 TICADユニットプログラム・マネジメント専門官の方々からのお大変貴重なお話を伺うことができました。また、生徒からのアフリカの現状に対する質問に対し、丁寧なご返答をいただくなど、生徒たちにとって、一生の心に残るものであり、これからの人生において大きな目標を見いだす機会となりました。また、来年のニューヨーク海外研修の際に再びUNDPアフリカ局訪問のご招待をいただきました。





星槎のスポーツ

スポーツを通じた 共感理解教育の実践

星槎の共感理解教育は、スポーツの場面でも実践されます。生徒たちはスポーツを通して、仲間と関わることで、共に喜び、感動の涙を流します。勝利を目指すことは大切です。しかし、勝利至上主義ではありません。勝利を得るために、自分自身が考え、仲間と話し合います。その過程で、自分の役割を理解すると共に、相手を尊重し、認める気持ちが生まれます。また、生徒たちは、自分たちが多くの人に支えられていることに気づきます。

スポーツで生まれた自信や仲間への信頼は、学習やその他の学校生活の面においてもポジティブな影響を与えます。



全国の校舎が、スポーツ・部活動に積極的に取り組んでいます

星槎では、全国のどの校舎でも部活動が盛んです。全日制高校が参加するインターハイや関東大会の他に、2019年度は、定時制通信制の全国大会にも8競技・約85名の生徒が出場するなど、生徒が通学し、関わり合う星槎ならではの実績を残しています。

星槎国際高等学校湘南

スポーツ専攻の取り組み

スポーツを通して人を知り、学ぶ。トップレベルの指導者と高い意識の仲間が集まる8つの専攻と1つのコース。

- 硬式野球 ●男子サッカー ●女子サッカー ●女子バレーボール ●陸上競技
- 男子バスケットボール ●女子バスケットボール ●アーチェリー
- スポーツサポートコース(女子体操、空手、スノーボードなど個人種目対応)

星槎道都大学の取り組み

歴史的にも、北海道を代表する部活動があります。学生は部活動を通して仲間との絆や社会とのつながりを深めます。来訪された方に共通する評価は、学生全員の「挨拶」の素晴らしさにあります。学内のどこにおいても、行きかう学生らのしっかりとした「挨拶」はたいへん気持ちの良いものです。こうした「挨拶」のモデルとなっているのは体育系の部活動の数々であり、星槎道都大学で培われる社会性の基点となっています。

星槎国際高等学校川口

スポーツアスリートコースの取り組み

フェンシング、近代五種からTOKYO 2020オリンピック・パラリンピック出場を目指す生徒と、「知っているけど、見たことあるけどやったことない」生徒が交流し、学び合い高め合う、世界唯一の学び舎。

星槎大学の取り組み

スポーツ身体表現専攻では、SCPとして、プロスポーツ経験者や現役選手、オリンピックや世界大会で活躍された方が数多く学ばれています。2019年度からは陸上競技部が本格的にスタートし、今後、箱根駅伝をはじめ、様々な場面での活躍が期待されます。

※SCP：星槎大学セカンドキャリアプロジェクト

星槎国際高等学校湘南 主な成績

各スポーツ専攻の主な成績

●硬式野球専攻 **プロ野球選手輩出**

2017年神奈川県高校野球春季県大会 ベスト4
2018年第100回全国高校野球選手権記念 南神奈川大会 ベスト4

●女子サッカー専攻 **なでしこリーグ選手輩出**

なでしこジャパン(日本女子代表)選出(宮澤 ひなた)
U-19日本女子代表選出(加藤 もも)
U-16日本女子代表選出(渋谷 巴菜、松尾 美月)
2017年度全国高等学校総合体育大会 ベスト4(全国3位)
2018年度全日本高校女子サッカー選手権大会優勝(日本一)

●男子サッカー専攻 **Jリーグ一輩出**

リーガエスパニョーラ(スペイン1部リーグ)契約選手輩出
2017年度関東高校サッカー大会神奈川県予選 ベスト8
2017年度全国高等学校総合体育大会神奈川県予選 ベスト16
2017年度全国高等学校サッカー選手権大会神奈川県予選 ベスト16

●女子バレーボール専攻

2019年度関東高等学校女子バレーボール大会神奈川県予選 優勝(関東大会出場)
2019年度関東高等学校女子バレーボール大会 ベスト16
2019年度全国高等学校総合体育大会バレーボール競技神奈川県予選 優勝(インターハイ初出場)
2019年度全国高等学校総合体育大会(インターハイ)ベスト32

●陸上競技専攻

オールアフリカゲームズ エリトリア代表選出 10000M出場
神奈川県高等学校新人陸上競技大会 男子走り幅跳び 優勝
神奈川県高等学校新人陸上競技大会 男子円盤投げ 第3位
神奈川県高等学校新人陸上競技大会 男子800m 第4位
神奈川県高等学校新人陸上競技大会 男子400m 第8位
2019年度関東高等学校選抜陸上競技選手権大会 男子走り幅跳び 優勝
2019年度関東高等学校選抜陸上競技選手権大会 男子円盤投げ 第12位

●アーチェリー専攻

2019年度神奈川県高体連秋季新人選手権大会 第2位
2019年度関東高等学校アーチェリー選抜大会出場

●スノーボード(スポーツサポート)

FIS Continental Cap 2020 & World Rookie
Tour Cardrona NZL Slopestyle 第3位

●体操競技(スポーツサポート)

ジュニアナショナル強化選手選出2017年～2019年
2018年度全日本体操個人総合選手権出場 11位
2018年度NHK杯出場 17位
サファリ国際大会 個人 優勝
2018年度国民体育大会出場 第5位
2019年度国民体育大会出場 第8位
全日本ジュニア選手権大会 個人総合6位
2019年度全国高等学校総合体育大会神奈川県予選 団体優勝
2019年度全国高等学校総合体育大会関東予選 団体第3位
2019年度全国高等学校総合体育大会出場 団体11位

●男子バスケットボール専攻

2019年度全国高等学校総合体育大会神奈川県西支部予選 ブロック優勝
2019年度全国高等学校総合体育大会神奈川県大会 ベスト32

●女子バスケットボール専攻

2019年度全国高等学校総合体育大会神奈川県西支部予選 ブロック優勝
2019年度全国高等学校総合体育大会神奈川県予選県大会出場

●空手(スポーツサポート)

第36回湘南地区空手道大会 一般・高校女子 組手の部 優勝 敢闘賞
第36回湘南地区空手道大会 一般・高校女子 形の部 敢闘賞
第36回湘南地区空手道大会 高校男子新人 組手の部 優勝
第36回湘南地区空手道大会 高校男子新人 形の部 3位

星槎国際高等学校横浜 主な成績

(2019年度)

スポーツサポートコースの主な成績

●体操競技

第1回世界ジュニア体操競技大会(ハンガリー・ジェール) 団体 優勝
第1回世界ジュニア体操競技大会(ハンガリー・ジェール) 個人総合 優勝
(あん馬 2位 平行棒 3位 つり輪 5位)



体操競技 柏木 淑里



体操競技 岡 慎之助



●フィギュアスケート

2019 ISUジュニアグランプリフランス(JGPクールシュヴェル)大会 優勝
2019 ISUジュニアグランプリポーランド(JGPバルティック杯)大会 準優勝
ジュニアグランプリファイナルの出場権を獲得
2019 関東フィギュアスケート選手権大会 ジュニア男子 優勝



フィギュアスケート 鍵山 優真

星槎国際高等学校川口 主な成績

スポーツサポートコースの主な成績

●フェンシング

2018年世界ジュニア・カデ選手権 ジュニア女子フルーレ U-20 金メダル
2018年世界ジュニア・カデ選手権 カデ女子フルーレ U-17 金メダル
第3回夏季ユースオリンピック2018・ブエノスアイレス大会 金メダル
2018 Asian Youth Fencing Competition(マカオ) 男子サーブル 金メダル
第2回ジュニア男子サーブルランキングマッチ U-17、U-20 金メダル
令和元年度全国高等学校総合体育大会 男子サーブル 優勝
アジアフェンシング大会2019 女子フルーレ 準優勝(個人) 優勝(団体)



フェンシング 上野 優佳

定時制通信制全国大会の主な成績

(2019年度)

●卓球

女子個人戦 優勝

●剣道

女子個人戦 3位
女子団体 ベスト8
男子団体 ベスト8

●陸上競技

女子 4x100mR 6位
男子 4x400mR 5位

●バドミントン

女子シングルス戦 3位
女子団体戦 準優勝

●自転車競技

チームスプリント 5位

●軟式野球

星槎国際広島 ベスト8



卓球 大崎 風和里

星槎道都大学 主な成績

(2019年度)

●硬式野球部

札幌六大学野球春季1部リーグ戦 優勝
第68回全日本大学野球選手権大会出場
札幌学生野球連盟春季トーナメント戦 優勝
札幌六大学野球秋季1部リーグ戦 準優勝

●柔道部(女子)

全日本学生柔道優勝大会出場
全日本学生柔道体重別団体優勝大会出場

●柔道部(男子)

全日本ジュニア柔道体重別選手権大会(66kg級ベスト8)
北海道学生柔道優勝大会 準優勝
全日本学生柔道優勝大会出場
北海道学生柔道体重別団体優勝大会 準優勝
全日本学生柔道体重別団体優勝大会出場

●陸上競技部

第45回洞爺湖マラソン 準優勝(参加者3,121名)
第71回北海道学生陸上競技対校選手権大会5000m 優勝、準優勝
第41回北日本学生陸上競技対校選手権大会10000m 優勝
第31回出雲全日本大学駅伝競走出場
(北海道学連選抜チームとして本学から部員1名出走)

●バレーボール(女子)

北海道大学バレーボールリーグ春季1部リーグ 第4位
東日本バレーボール大学選手権大会出場

●ハンドボール(男子)

北海道学生ハンドボール春季1部リーグ戦 第3位
東日本学生ハンドボール選手権大会出場

星槎国際高等学校のスポーツサポートコースでは、大会により、星槎国際高等学校として出場する場合と、クラブチームとして出場場合があります。



星槎のスポーツ

2020年
東京オリンピック・パラリンピック競技大会へ、
そしてその先へ



未来に向け スポーツを超えて

同じ時代を生きるこどもたちのために

星槎グループは、スポーツを通じた世界の青少年の育成にも力を入れています。2014年、公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック大会組織委員会と連携・協力体制のための協定を締結しました。2015年にはアフリカのエリトリア国オリンピック委員会(ENOC)と、2017年にはブータン王国オリンピック委員会(BOC)と、そして2018年にはミャンマー連邦共和国オリンピック委員会(MOC)と神奈川県での事前キャンプに関する協定を締結。各国に対しアスリートの強化やスポーツ留学生の受け入れ等、多彩な支援プログラムを実施してきました。さらに、星槎グループの進めている日本へのスポーツ奨学生のプログラムは、国際オリンピック委員会(IOC)および日本オリンピック委員会(JOC)が創設した、公式の「オリンピック・ソリダリティ特別プログラム」へと発展しています。今後も2020年をひとつの契機として、さらに未来へと続く支援と交流を進めていきます。



スポーツを通じて 世界に広がる笑顔の連鎖



KINGDOM OF BHUTAN ブータン王国



日本での大会に参加したブータンのアーチェリー代表チーム



アーチェリーのトレーニングに励むブータンからの留学生



ブータンのパラアスリートたちと

2020 オリンピック・パラリンピック
東京大会に向け

事前キャンプ協定調印



ジゲル・ウゲン・ワンチュク王弟殿下／ブータンオリンピック委員会会長と宮澤保夫会長



2017年4月13日ブータンと事前キャンプ招致協定を締結(写真左より、中崎久雄大磯町長、山口昇士箱根町長、加藤憲一小田原市長、黒岩祐治神奈川県知事、ジゲル・ウゲン・ワンチュク王弟殿下／ブータンオリンピック委員会会長、宮澤保夫会長)



STATE OF ERITREA エリトリア国



アスリートとこどもたちの交流



星槎国際高校への留学生とチームメイト



地域のみなさんとエリトリア料理で交流

2020 オリンピック・パラリンピック
東京大会に向け

事前キャンプ協定調印



大統領の個人執務室を訪問。イサイアス・アフォルキ大統領と宮澤保夫会長



2015年9月2日エリトリアと事前キャンプ招致協定を締結(写真左より、山口昇士箱根町長、加藤憲一小田原市長、黒岩祐治神奈川県知事、メハリ・テスファイエリトリアオリンピック委員会会長、中崎久雄大磯町長、宮澤保夫会長)



THE REPUBLIC OF THE UNION OF MYANMAR ミャンマー連邦共和国



星槎道都大学で合宿をした柔道代表チーム



SEA GAMES(東南アジア競技大会)で銀メダル獲得



ミャンマーからの空手留学生たち

2020 オリンピック・パラリンピック
東京大会に向け

事前キャンプ協定調印



星槎湘南大磯キャンパスを訪れたミョー・ライン事務局長と宮澤保夫会長



2018年4月24日ミャンマーと事前キャンプ招致協定を締結(写真左より、勝俣浩行箱根町副町長、宮澤保夫会長、ミョー・ライン ミャンマーオリンピック委員会事務局、黒岩祐治神奈川県知事、中崎久雄大磯町長、加部裕彦小田原副市長)

ジゲル ウゲン ワンチュク王弟殿下 からのお手紙

ブータン国王代理・ブータンオリンピック委員会会長

宮澤保夫会長にはじめてお会いしたのは、2016年5月の日本訪問のときでした。

2020年東京オリンピック・パラリンピック、そしてその先にあるスポーツの振興について話し合いましょうとブータンオリンピック委員会代表団が星槎から日本にご招待いただいたのです。

私が思い描いていたのはスーツに身を包んだ、厳粛で真面目な日本人でしたが、実際に目の前に現れたのは、私の想像とは正反対の男性でした。リラックスし、くつろいだ雰囲気をまといながらも情熱にあふれた宮澤保夫会長は、けっして偉ぶらず、お気に入りのジーンズをはいて、あるがままの自分であることを楽しんでいるといった様子でした。しかしながら、彼の穏やかさと辛抱強さの後ろには、強い決断力と圧倒的に幅広い経験が見てとれました。私は出会った瞬間に、何かに導かれるように宮澤会長とところを通じ合わせることができました。彼の夢や必要とする人のために尽くしたい、彼なりの方法で社会を変えていきたいという思いを彼から伺い、そして学びました。彼の発想は伝統にとらわれず、多くの場合、革新的と位置付けていいものでした。

まさにこの出会いの瞬間、宮澤会長と私には未来に向けた類いまれな種が植えられました。そして私たちは親密な友情と共感的協働に向けて歩みはじめました。今ふり返ってみれば、それはブータン王国のスポーツ振興にとってたいへん重要な、決定的な瞬間でもありました。私たちはブータンオリンピック委員会と星槎が目指すものは一緒であることを確認し、教育システムにおけるスポーツの重要性、および個人、社会、国家の進歩に対するスポーツの社会貢献的役割について協定書を締結し

たのです。私たちの友情と協働はこのように着実に実を結んできました。

宮澤会長と星槎は、ブータンオリンピック委員会のなくてはならないパートナーとなりました。宮澤会長のご尽力で日本の多くの関連組織、機関、公的要人も、ブータン王国のスポーツ推進のために力を合わせていただけるようになりました。特に、間近に迫った2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けての重要なサポートをブータン王国選手に対して迅速に進めていただいております。

初めてお会いして以来、宮澤会長はブータン王国へ何度かお越しいただき、その度に私たちは共通の関心事についてさまざまな意見を交換し、個人的な友情も深く育んできました。

2017年4月に私は日本を再度訪れ、品川を拠点に滞在しましたが、そのときも宮澤会長と星槎が、日本でのSEISA-Bhutan Olympic Committeeプロジェクトを主導してくださいました。今回のプロジェクトは、神奈川県民の皆様にも歓迎していただき、星槎パートナーシップに加え、神奈川県内の市や町とも協定を締結する運びとなりました。また、宮澤会長は、ブータンオリンピック委員会、および競技連盟、そして日本の関連機関と深く協議し、若手アスリートの育成やブータンパラリンピック委員会の創設を含めたスポーツ振興のためのアクションプランの草案を作成してくださいました。宮澤会長と星槎は、ブータン王国のスポーツ教育とスポーツ振興の未来をより発展させる上で大きな影響力を持つ存在です。しかしながらそれ以上に、宮澤会長は私個人とブータン王国にとっての親愛なる友人として、この上なく大切な存在です。

HRH ジゲル ウゲン ワンチュク
王弟殿下・国王代理
ブータンオリンピック委員会会長

HRHジゲル王弟殿下は、2018年国際オリンピック委員会委員に御就任されました。アジア・オリンピック委員会での国際関係委員会委員長としてアジアにおけるスポーツの興隆に加えて、世界におけるオリンピックムーブメントの興隆にともなうオリンピズムの普及に尽力をされています。また、先日の北海道胆振東部地震においてもいち早くお見舞いの言葉を星槎にお送り戴きました。

A letter from HRH Prince Jigyel Ugyen Wangchuck Representative of His Majesty the King and the President, Bhutan Olympic Committee

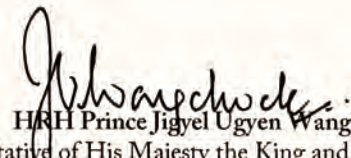
I first met Mr. Yasuo Miyazawa during a visit to Japan in May, 2016. SEISA had invited a delegation from the Bhutan Olympic Committee, to discuss on the development of sports for the Tokyo 2020 Olympics I Paralympic and beyond.

I expected to meet a somber, serious Japanese in a suit, but the man I met was exactly the opposite of that. Relaxed, laid back and easily excitable, Mr. Yasuo Miyazawa exulted a sense of umbleness, one who was comfortable in his own skin, and in his jeans. But behind his calm and patient composure was a man, filled with determination, and who possessed an overwhelming range of experiences under his belt. I could not help, but immediately connect with him, to listen and learn from him, about his dreams, his sense to help and to try and change the world in his own way, which were unorthodox and oftentimes bordering on the radical.

It was then that this unique seed of friendship and partnership with Mr. Miyazawa was planted, which has now turned out to be a crucial moment for the benefit of sports development in Bhutan. With a common goal shared by both Bhutan Olympic Committee and SIESA, we agreed upon the importance of sports in the education system and its contribution to the development of the individual, society and the country, and our friendship and partnership has thus flourished.

Mr. Miyazawa and SEISA have become an integral partner of the Bhutan Olympic Committee and brought together many other relevant stakeholders, agencies and official personnel from Japan to promote sports in Bhutan, with an immediate importance given to specifically prepare Bhutanese athletes for the upcoming 2020 Olympic and Paralympic in Tokyo.

Mr. Miyazawa has since then made several trips to Bhutan and we have had ample time further grow our friendship, given our numerous shared interests. In April 2017, I made a second visit to Japan in Shinagawa, Tokyo, where Mr. Miyazawa and SIESA group spear headed the SEISA- BOC (Bhutan Olympic Committee) project in Japan. This project was received well by the people of Kanagawa and SEISA had offers from other towns in Kanagawa and cities to include them in future SEISA partnerships. Mr. Miyazawa also drafted an action plan for sports development in close consultation with the Bhutan Olympic Committee and the federations, the establishment of Bhutan Paralympic Committee and with the concerned agencies in Japan. Mr. Miyazawa and SIESA has become an influential force to strengthen the future of sports education and development in Bhutan, but more than that he has grown to be an invaluable close friend of mine and Bhutan.


HRH Prince Jigyel Ugyen Wangchuck
Representative of His Majesty the King and the President,
Bhutan Olympic Committee



ジゲル王弟殿下、皇太后と宮澤会長ご夫妻

星槎から 世界へ

星槎グループでは、創立当初から、各学校による海外への修学旅行、研修旅行、ホームステイなどさまざまな交流を行う中で、国際理解教育を実践してきました。

2010年、世界中のすべてのこどもたちへの支援をすすめるため、世界こども財団を設立し、活動を広げています。



公益財団法人 世界こども財団
FGC—Foundation for Global Children

日本では、「東日本大震災」直後から、地域に密着した継続的な支援活動を、海外においては、アジア・アフリカ地域を中心とし、こどもたちの身体のみならず心のケアを含めた医療環境や教育環境の整備、またスポーツを通じたこどもたちの健全な育成のための支援を行っています。(世界こども財団は、2015年5月12日付で「公益財団法人世界こども財団」として認可を受けました)



Since
1987

サイパン

- PAL(Participate And Learn)プログラムをマリアナ高等学校との間で実施(1994年連邦政府から姉妹校として認定)。
- 世界平和及び総合歴史理解を推進するための学生交流プログラム実施。

Since
1990

バングラデシュ

- 1990 年国営放送局を再構築。
- アグラサーラ・コンプレックス(孤児院、学校、等)を支援。(株)矢部プロカッティングと協力し、縫製工場を立上げ、職業訓練・自立支援を実施。

Since
1993

ブータン

- ロイヤル・ティンブー・カレッジとの覚書を締結し、交換留学プログラムを毎年実施。
- パラリンピック委員会の創設を含めた2020年東京オリンピック・パラリンピック参加支援、留学プログラム等スポーツを通じた青少年育成支援。
- 医療・農業など多岐にわたる支援。

Since
2013

中国

- 現地の大学と覚書を締結し、相互交流・協力プログラムを実施。
- 高齢者介護、こどもの育成、教育者養成分野での協力。

Since
2013

ニューヨーク

- 現地の高等学校と交流プログラムを実施。
- 世界平和を学びつつ、人々と文化の多様性を体験。
- 国連開発計画(UNDP)でのSAABの活動紹介、SDGsの取り組みの発表。

Since
2013

ミャンマー

- 医療環境向上のため、無線機器付き救急車を寄贈。スクール・ヘルス・プログラムの実施を支援。
- 高校生・大学生の日本への短期留学プログラムを実施。
- ネピドーの孤児院・学校施設への支援。
- 2020年東京オリンピック・パラリンピック参加支援、留学プログラム等スポーツを通じた青少年育成支援。

Since
1993

エリトリア

- こども達の教育、保健衛生向上のための支援活動。
- 2020年東京オリンピック・パラリンピック参加支援、留学プログラム等スポーツを通じた青少年育成支援。

Since
1998

カンボジア

- こども達の医療・教育環境構築への支援。地雷により身体障がい者となった人々への職業訓練を支援。

Since
2002

アラスカ

- アラスカ・フェアバンクス大学、国際北極リサーチ・センターと覚書締結。
- 宇宙工学専攻学生への学習支援。

Since
2015

ネパール

- 2015年4月の大震災の直後から、緊急募金活動を実施。
- 現地NGOと連携し緊急支援物資を届け、被災地の約625人のこどもたちに新しい制服を贈呈。



Since
2004

ドイツ

- スポーツ専攻のサッカーチームがトレーニング交流訪問を実施。
- ヘッセン州セント・アンジェラ・シュールとの文通交流を実施。

Since
2007

ハワイ

- 豊かな自然と文化、そして日本との長い交流の歴史から多様性を共感的に学習。

Since
2012

台湾

- 公立・私立大学と覚書を締結し、特に高齢者介護分野での協力関係を構築。



さまざまな 国際支援・交流を実践しています

ブータン王国

- 星槎グループが、ブータン初の私立大学、RTC(ロイヤル・ティンブー・カレッジ)と覚書締結。学生交流プログラムを実施。
アシ・ケサンー宮澤星槎奨学金を設け、高校生を日本の高校(主に星槎グループ校)に留学受入れ。
- 山岳地帯の医療・教育環境を整備するための必需品を提供。
国立医科大学プロジェクトに関し、企画・資金調達(日本政府との調整)等の面で支援。
- ブータン・オリンピック委員会と"Bhutan-Japan Sports Collaboration 2016-2020"の覚書を締結、2020年東京オリンピック・パラリンピックへのブータンの参加および事前キャンプ誘致、さらに未来へと続くスポーツを通じた支援と交流を実施。
- 2017年4月、ブータン・オリンピック委員会、神奈川県、小田原市、箱根町、大磯町、星槎グループ6者による事前キャンプに関する協定を締結。
- 2017年5月より継続的に同国陸上競技連盟にコーチ派遣、また9月にはアーチェリー代表チームを日本の大会に招聘。
- 2017年より継続的にスポーツ奨学生の受け入れを開始。現在、高校・大学に陸上競技、アーチェリー、柔道合わせて5名が在籍。
- 同国パラリンピック委員会設立を支援、パラアスリートの育成を本格化し、2019年陸上競技(砲丸投げ)で2名が初のパラリンピック参加標準記録を突破。
- 2019年、宮澤保夫会長がBOC会長ジゲル・ウゲン・ワンチュク王弟殿下の名誉顧問に就任。



BOC会長ジゲル・ウゲン・ワンチュク王弟殿下とMoU締結式にて



長年にわたり親交を深めているアシ・ケサン王女ご一家とともに

エリトリア国

- 2014年9月、エリトリア・オリンピック委員会と覚書を締結し、2020年東京大会、さらに未来へと向け、同国のオリンピック・パラリンピック競技参加を支援。
- エリトリアから陸上競技選手を日本に招き、大会、トレーニングや記録会への参加支援、また日本のこどもたちとの交流を実施。
- 2015年9月、2020年東京大会に向けてエリトリア・オリンピック委員会、神奈川県、小田原市、箱根町、大磯町、星槎グループの6者による事前キャンプに関する協定を締結。
- 2017年4月より、エリトリアの陸上競技留学生を受け入れ開始。現在、高校・大学合わせ6名が在籍。
- 2017年5月には独立記念週間に現地を宮澤保夫会長が訪問、星槎グループの創作和太鼓集団「打鼓音」も同行し演奏活動を実施。
- Unicefエリトリアと協働プログラムを立ち上げ、学校を拠点とした幼児期からの教育と水道、衛生環境整備等を組み合わせた統合的なコミュニティ開発支援を推進。



日本での記録会に参加したエリトリアの陸上競技選手たち



エリトリアの首都アスマラでの打鼓音公演



エリトリアからの留学生デジェン君、アヌール君

ミャンマー連邦共和国

- IT技術者育成プログラムを支援するとともに、IT環境の整備を支援。
- 医療・教育環境の整備を支援。医師、看護師、公衆衛生保健師の研修。移動診療及び緊急診療(特に妊産婦)用に救急車2台を寄贈。
- 政府が進めるスクール・ヘルス・プログラムを支援。コミュニティ全体の衛生環境向上に寄与。
- ミャンマー科学技術省が選定した留学生を受け入れる「Japan Study Program」を2014年から実施。
- ネピドーの孤児院・学校Sama-Taunへの支援を開始。代表団を招き日本の児童養護施設等の視察を実施。はアーチェリー代表チームを日本の大会に招聘。陸上競技、アーチェリーのスポーツ奨学生の長期留学受け入れを開始。
- ミャンマー・オリンピック委員会と協定を交わし、2020年、さらに未来へと向けた支援活動を開始。同国陸上競技代表チームへのコーチ派遣、柔道代表チームの合宿受け入れ等を実施。
- 2018年4月、ミャンマー・オリンピック委員会、神奈川県、小田原市、箱根町、大磯町、星槎グループの6者で2020年東京大会へ向けた事前キャンプ協定を締結。
- 2019年4月よりミャンマーの空手競技高校生3名を奨学生として長期受け入れ開始。



ティン・ティン・タイ保健副大臣とともに



ネピドーの孤児院で生活するこどもたちとともに

公益財団法人 世界こども財団 による被災地支援活動

東日本大震災の支援活動

世界こども財団では、2011年3月11日の東日本大震災の直後から、震災被災地への生活物資支援を開始。その後も、現地の状況を把握しつつ活動を続けています。現在は、福島県南相馬市の小・中学校でこどもたちに対する心のケアに繋がる活動を行っています。

教育環境支援班

星槎大学の教員や不登校対応に実績のある星槎グループの教職員を中心に、臨床心理士やスクールカウンセラーにより、こどもたちの心のケアを持続的に行うとともに、こども支援のネットワークの構築も担っています。

2011年から2015年まで相馬市内の被災4校を2012年より南相馬市小高地区、2014年より南相馬市内全ての中学校で心のケアを実施しています。

医療支援班

特定非営利活動法人医療ガバナンス研究所の上昌広理事長（元東京大学医科学研究所）研究班が中心となり、亀田総合病院（千葉県鴨川市）、ときわ会常磐病院（いわき市）等の研究グループと星槎グループが連携し、現状把握と問題点の洗い出しを行う中で、放射線についての説明会や健康診断、健康相談等を継続して行っています。

北の大地に会いに行こう

冬に星の降る里、北海道芦別市に福島県のこどもたちを招待し、ウィンタースポーツを満喫していただきます。帯広市、芦別市と世界こども財団で協力して企画・実施していきます。2018年までに475人のこどもが北の大地を訪れました。



FGCの活動状況（2019年現在）

教育環境支援班が実施した カウンセリング等	医療支援班が実施した 放射線説明会	健康診断、健康相談等
生徒児童、教員、保護者等約 14,000名	一般市民、教員、医療関係者等約 3,400名	一般市民 約 4,400名

その他の地域での 支援活動

2016年4月 熊本地震

- 被災地の避難所や病院への緊急支援物資の支給活動
- 星槎グループの教職員による、震災後のこどものストレスケアについての講演活動
- 全国で募金活動を展開、熊本市の大西市長に星槎グループ職員から寄付金贈呈

2018年7月 西日本豪雨

- 全国で募金活動を展開、広島県呉市に寄付金を贈呈

2018年9月 北海道胆振東部地震

- 札幌市を中心に緊急支援物資の支給活動
- 全国で募金活動を展開、今後も継続

『生活』『情報』『コミュニケーション』

地域に根差し、地域から社会に、世界に影響を与える！

FM湘南マジックウェーブ(SMW)は、日本で唯一の「学校法人が免許を受けて運営するFMラジオ局」です！



**SHONAN
MAGIC WAVE**

SEISA COMMUNITY FM 85.6MHz
<https://fm-smw.jp/>



インターネットで、世界中どこでも聴くことができます。



小さな放送局の大きな冒険！！

FM湘南マジックウェーブは単に情報を伝達するだけではなく、みんなで地域・日本・世界を学び、人と人との関わりあい大切さに気づき、更には心が豊かになる波「ウェーブ(WAVE)」を送りたいと考えます。

小中高生も大学生も番組制作を担当しています。

FM湘南マジックウェーブでは、1週間に20本の番組を大学生が担当しています。ラジオなんて聴いた経験などない、しかしながら未来を背負って立つ子ども達や学生達が、いま感じたことをそのまま声にして発信します。選挙権が引き下げられ成人年齢も下がり、被選挙権の引き下げの議論もはじまりました。FM湘南マジックウェーブはメディアとして、地域・日本・世界の行方をウォッチし、コミットしていきます。

例えば高校生によるメディア専攻ゼミのご紹介

番組制作を通してコミュニケーション力をつける、チームワークの大切さを知る、企画力・プレゼンテーション力をつける、そして何よりも、自らが生きる地域と人を知ることを目的に開講されています。



放送局はみんなが集まる場所です。

FM湘南マジックウェーブは地域コミュニティの場所です。日々の生活のこと・子育てのこと・町政や県政国政はもちろん、自然災害をはじめ、身近におきた問題や疑問なども取り上げて放送します。町中のあちこちに取材にも出かけますし、スタジオに来てお話ししていただくこともあります。多くの方の声をより近くで受け止めて、波「ウェーブ(WAVE)」を起こしたいと考えます。





宇宙航空研究開発機構(JAXA)宇宙教育センターと 宇宙教育についての連携協定を締結

星槎グループの学校では、日常の学習の中で宇宙に関する学びを深めてきましたが、今回の連携により、今後、より一層、学生や生徒などへ宇宙を素材にした学びによる「命の大切さ」をベースにした共感理解教育を展開していきます。その中で、子ども一人ひとりに宇宙航空教育の理念である「好奇心」「冒険心」「匠の心」を育てるとともに、JAXA宇宙教育センターと共に宇宙教育の教材開発や効果測定などを実施する中で、宇宙航空教育を実施できる教職員の育成にも力をいれていきます。



「宇宙の教室」

「はやぶさ2」プロジェクトから学ぶ

JAXAとの連携のもと、実際にプログラミングソフトを使いながら人工衛星に簡単な指示を送ることから始め、最後は全国初の取り組みとして、「はやぶさ2の惑星リュウグウへのタッチダウン」を体験するというプログラムを実施しました。



「宇宙」をキーワードに学ぶ

星槎の中学高校では、宇宙に関する内容を組み込んだ授業を展開しています。「まだ見ぬ宇宙で生活している生命体に地球を紹介しよう!」「昔の人はどのように地球の大きさを測ったのか?」など「宇宙」をキーワードに「自ら探求する」学びを行っています。



国際的アーティスト マッケンジー・ソープさんが星槎の仲間入り!

マッケンジー・ソープさんが 星槎大学の客員教授に就任

文字の読み書きが困難なディスレクシアという症状と向き合いながら、絵画の世界に光を見出し、世界が子どもたちにとってより良い場所となるようお願い、「愛と真実」で貫かれた数々の作品を生み出しているマッケンジー・ソープさんが星槎大学客員教授に就任されました。今後、ソープさんは星槎の仲間として、全国の星槎の学生、生徒あるいは教職員や保護者などと様々な形で関わっていただきます。



マッケンジー・ソープ

国際的に有名なアーティストであるマッケンジー・ソープさんは、経済的に困難な次期に、北イングランドの産業の町で育ちました。ディスレクシアという文字の読み書きが困難な症状のため、苦勞しながらも絵画の世界に光を見出しました。彼の作品は愛と友情をもとに、人間の持つ感情のすべてが内包されています。そして、個々の成功と内省の大切さを表現するものです。

彼は心底この世界が子どもたちにとってよりよい場所となるよう願っています。いくつかの作品は、人類の回避できない絶望や、うわべの無益なものを表現しているように見えますが、実はそのような中にも希望と愛があることを伝えていきます。また人々と同様に動物をモチーフに、我々の人生における美しい瞬間を表現します。彼のすべての作品を通して、そこには「愛と真実」を見ることが出来ます。

マッケンジー・ソープさんは愛は全てを克服することができると信じ、また彼の作品がそのことを事実として物語るのです。彼は驚くべき才能を持つ特別な男性です。そして真のアーティストです。



星槎グループ組織図

SEISA Group Organization Layout

学校法人 国際学園

星槎大学・大学院

共生科学部(通信制課程) 通学制課程準備中
大学院 教育学研究科(修士課程)
看護教育研究コース
メディア・ジャーナリズム研究コース
大学院 教育学研究科(博士課程)
大学院 教育実践研究科(専門職学位課程)

別科 日本語専攻

外国人介護福祉士事業部
附属研究センター
附属教職総合支援センター
附属国際交流センター
附属発達支援臨床センター
附属エクステンションセンター
キャリア総合支援センター
適応自立支援コース

星槎国際高等学校

学習センター／実習施設等

札幌、札幌北、旭川、芦別、帯広、仙台、郡山、川口、
立川、八王子、厚木、横浜鴨居、湘南、小田原、静岡、
浜松、名古屋、富山、福井、大阪、広島、高松、丸亀、
北九州、福岡東、福岡中央、小倉、沖縄、那覇、ほか
実習場全国130か所以上

星槎高等学校

星槎中学校

星槎名古屋中学校

星槎もみじ中学校

放課後キッズクラブ(横浜市内小学校2校)

幼保連携型 認定こども園

ピーターパン幼稚園

幼保連携型 認定こども園

青葉台幼稚園

星槎札幌もみじキャンパス

星槎湘南大磯キャンパス

星槎小田原キャンパス

星槎高尾キャンパス

星槎川口キャンパス

星槎富山キャンパス

星槎箱根キャンパス

星槎レイクアリーナ箱根

星槎稲取研修センター

地域コミュニティFM放送局

湘南マジックウェイブ(SMW85.6MHz)

一般社団法人



星槎グループ

星槎グループは共生社会実現に資する「共感理解教育」の必要性を表現するため、身近なことから学ぶ、命のつながりを学ぶ、仲間と共に学ぶということを実現化してきました。「人を認める・人を排除しない・仲間を作る」という星槎の三つの約束のもと、さまざまな学び合いの場を創り、展開しています。

公益財団法人 世界こども財団

国内支援

・被災地を中心とする教育・医療支援東北、熊本 他

海外支援

アジア：ブータン、ミャンマー、ネパール
バングラデシュ、カンボジア、ラオス 他
アフリカ：エリトリア 他



学校法人 北海道星槎学園

星槎道都大学

社会福祉学部 社会福祉学科
経営学部 経営学科
美術学部 デザイン科／建築学科
別 科：日本語専攻
通信教育：保育士／社会福祉士
／精神保健福祉士

星槎学園

中等部・高等部

北斗校
湘南校
横浜ポートサイド校
大宮校

社会福祉法人 星槎

野川南台保育園

ティンクル上野川保育園

ティンクル瀬谷保育園

ティンクルくぬぎ坂保育園



METO PEMA 村

総合案内 星槎グループ TEL.0463-71-6046
<https://www.seisagroup.jp>

横浜・ブータン王国友好協会

医療・教育未来創生研究所

神奈川県青年海外協力隊支援協会

国際部

国際宮澤教育財団

NPO打鼓音

・伝統文化(和太鼓)継承

NPO劇団新制作座

・演劇公演活動 ・伝統文化継承
・舞台芸術

NPO星槎教育研究所

・SST／学習支援 ・教育相談
・教育支援 ・ひきこもり支援

NPO星槎さっぽろ教育センター

・教育相談 ・フリースクール事業

星槎・紙守合同 紙研究所

・紙漉き体験 ・技術者養成
・伝統文化(和紙)継承

農業生産法人 星の島

・農業 ・食品加工 ・園芸 ・牧畜

株式会社 リブロ

・スペイン語輸入書籍販売

有限会社 湘南マジックウェイブ

・FM放送企画運営
・宇宙教育研究支援
・学校経営コンサルティング
・スポーツ健康事業部
・教育コンサルティング

一般社団法人 外国人介護福祉士協会

一般社団法人 スペースウェザー協会

宇宙研究支援(アラスカ大学・NASA)

星槎アスレチッククラブ(星槎AC)

一般社団法人 星槎湘南大磯総合型スポーツクラブ

OSA FC・OSALEIA FC

一般社団法人 星槎箱根仙石原総合型スポーツクラブ

□星槎の3つの約束

人を認める
人を排除しない
仲間を作る

宮澤保夫

星槎の歌 ～ Star Raft(ほしのいかだ)～

作詞 / 宮澤保夫・星槎の歌制定委員会

作曲 / さいとう聖子

集う我等の学び舎は 友と育む源の
星の槎に心と真 明日に光と勇気を求める

ああ星槎 我が星槎
強く生きるその想い

共に星に学び人を知り めぐる未来に希望の天空
進む道には星の槎 心に溢れる新たな力

ああ星槎 我が星槎
強く生きるその想い

ああ星槎 我等が星槎
強く生きるその想い

